

平成30年度 文書館評価

評価項目1 文書館の利用 県民の共有財産である文書館の収蔵資料の利用, 活用を図ります。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	◇目標値の設定理由 ◆達成状況分析	30年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	27年度	28年度	(29年度)						
1 登録者数	2,061	2,223	(745)	—	(573)	—	<p>◇大規模改修工事の影響で、年度前半は仮事務所における暫定開館、年度後半は臨時休館となることから、29年度と同様、評価項目1については目標値の設定は行いません。閲覧可能な期間が暫定開館中の6か月間に限られる上に、本来の閲覧環境ではないために資料にも負担をかけることから、閲覧者数や利用点数が多いことが単純に良い評価とはならないからです。</p> <p>◇したがって、30年度についても、数値目標を設けるのではなく、ひとつひとつの閲覧希望に対して安全・確実に応えていくことを目標とするとともに、リニューアルオープン後の積極的な利用を呼び掛けるため、文書館の利用方法や収蔵資料への関心を高めるためのPRを続けていく必要があります。</p> <p>◆30年度は、各項目についての目標値の設定は行いませんでしたが、実績値を参考としてカッコ書きで掲載します。</p> <p>◆大規模改修中の制限された運営体制であったため、通常年度(27年度、28年度)に比較してどの項目も減少しましたが、ひとつひとつの閲覧希望等に対して安全・確実に応えていくことができました。</p> <p>◆30年度は大規模改修を行っていることが広く周知されてきたことから、レファレンス件数や検索システムアクセス件数の実績値は前年度比で減少しました。このような中でホームページのアクセス件数のみが増加しており、文書館に対する関心の高さがうかがわれます。</p>	<p>○暫定開館及び臨時休館の期間や暫定開館中における利用方法の周知を図るとともに、照会や利用希望に丁寧に対応することができました。</p> <p>○あわせて、大規模改修工事の進捗状況や31年度当初のリニューアルオープンに向けた準備状況及びその間の文書館の活動業務などを、ホームページや県の広報誌(彩の国だより)、新聞、地域のFM放送等、様々な手段で発信しました。</p> <p>○展示や講座・講習会などの普及事業を他の博物館や図書館等と連携したアウトリーチ手法により積極的に実施することにより、文書館の魅力を県内に広くアピールすることができました。</p>	<p>○足掛け2年の大規模改修工事を経たりリニューアルオープンであることから、円滑な館運営により一層留意し、快適な利用環境を提供できるよう努める必要があります。</p> <p>○また、開館50周年にも該当するため、記念シンポジウムを開催し、文書館の役割や魅力を広く発信します。</p>
2 閲覧者数	4,629	4,532	(1,820)	—	(1,206)	—			
3 利用点数	35,587	42,263	(23,662)	—	(7,694)	—			
4 レファレンス件数	670	223	(205)	—	(99)	—			
5 検索システムアクセス件数	100,912	95,419	(77,030)	—	(65,223)	—			
参考) 利用者数	20,169	16,936	(8,960)	—	(6,312)	—			
参考) ホームページアクセス数	105,185	89,085	(99,206)	—	(106,888)	—			

評価項目2 行政文書の公開 歴史的・文化的に価値ある行政文書を収集・整理し公開することにより、県政の記憶装置として県民の要望に応えます。

測定項目	過年度実績 (公開累積数で表示)			目標値A	実績値B	達成率 B/A	◇目標値の設定理由 ◆達成状況分析	30年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	27年度	28年度	29年度						
行政文書の公開(予定)点数 (整理済点数)	170,186	177,940	185,514	186,000	187,883	101.0%	<p>◇30年度は、前半が仮事務所での暫定開館、後半が臨時休館となる制約の中で整理・公開できる点数を測定項目としました。</p> <p>◇例年に比べ収集点数が大幅に少なくなることが見込まれるため、約500点としました。</p> <p>◆行政文書の新規公開点数は2,010点で、目標を上回る点数を公開することができました。</p>	<p>○受入を停止していた行政文書について、リニューアル・オープン後の受入体制を構築するとともに、関係各課と協議・調整を行いました。</p> <p>○東日本大震災関連などの歴史的資料について、文書が廃棄される前に通知を行い、適切に収集を行いました。</p> <p>○研修や庁内広報等を活用し、県職員へ歴史公文書等に対する意識啓発を図りました。</p>	<p>○引き続き、文書管理制度における当館の役割や歴史公文書等に対する県職員の意識啓発を図ります。</p>

評価項目3 古文書の公開 埼玉県に関する歴史的・文化的に価値ある古文書の整理・公開を促進して県民共有の財産とし、県民の要望に応えます。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	◇目標値の設定理由 ◆達成状況分析	30年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	27 年度	28 年度	29 年度						
古文書の公開(予定)点数 (整理済点数)	421,617	428,866	434,366	446,366	446,461	100.0%	<p>◇30年度も大規模改修工事のため、暫定開館ないし休館となり新たな公開はできないため、31年度のリニューアル・オープン後に公開できるよう整理を済ませておく点数を測定項目としました。</p> <p>◇前年度から取り組んでいる、未着手であった他機関所蔵の本県関係古文書写真版からの目録化作業を継続し、これらも含めた整理点数を目標値としました。</p> <p>◆計画的に整理及び目録作成を進め、目標を上回る点数を公開することができました。</p> <p>◆また、他機関所蔵の本県関係古文書写真版の公開に向けた目録化作業も、ほぼ予定どおり実施することができました。</p>	<p>○リニューアル・オープン後に公開するため、青木家文書(11,774点)の整理を行うとともに目録を刊行し、公開の準備を整えることができました。また、茂木家文書(321点)についても整理の後、公開の準備を整えることができました。</p> <p>○他機関所蔵の本県関係古文書写真版(5,793点)の目録化作業を進め、リニューアル・オープン後の利便性の向上に努めました。</p>	○引き続き他機関所蔵の本県関係古文書写真版の目録化作業を進め、順次データベースに登録し、利便性の向上に努めます。
報道写真の公開(予定)点数 (整理済点数)	107,417	136,786	139,042	149,885	149,278	99.6%	<p>◇30年度も大規模改修工事のため、暫定開館ないし休館となり新たな公開はできないため、31年度のリニューアル・オープン後に公開できるよう整理を済ませておく点数を測定項目としました。</p> <p>◇30年度も前年度と同様に制約の多い中での整理作業となるため、目標点数は例年の50%程度に設定しました。</p> <p>◆リニューアルオープンに向け、制約の多い中ではあるものの、整理に努めた結果、目標値には届きませんでしたが、ほぼ予定どおり実施することができました。</p>	<p>○昭和47年の報道写真の公開に向け、整理作業を進めました。</p> <p>○31年度のリニューアル・オープンに向け、報道写真の公開手順や公開基準の再整備を図りました。</p>	○昭和48年の報道写真の公開に向け、整理作業を進めます。

評価項目4 地図資料の公開 埼玉県に関わる地図資料を収集して、整理、公開を進め県民共有の財産として公開します。

測定項目	過年度実績 (公開累積数で表示)			目標値A	実績値B	達成率 B/A	◇目標値の設定理由 ◆達成状況分析	30年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	27 年度	28 年度	29 年度						
地図資料の公開(予定)点数 (整理済点数)	76,929	77,966	79,234	80,000	79,908	99.9%	<p>◇30年度は、前半が仮事務所での暫定開館、後半が臨時休館となる制約の中で、整理できる点数として、目標値を約760点としました。</p> <p>◆大規模改修工事により限られた期間内での作業となったため、目標値には若干届きませんでしたが、ほぼ予定どおり収集、整理、公開の準備を完了することができました。</p>	<p>○例年より早い時期に県庁各課と各市町村に対し、地図の収集を依頼しました。</p> <p>○臨時休館中に集中的・効率的な整理に取り組みました。</p>	○年間を通して計画的に資料の収集、整理、公開作業を進めていきます。

評価項目5 史料叢書の刊行及び県史編さん資料の整理公開 郷土埼玉に関する貴重な史料を刊行するとともに県史編さん資料を整理し公開します。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	◇目標値の設定理由 ◆達成状況分析	30年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	27年度	28年度	29年度	30年度					
1 史料叢書の刊行	第18巻 埼玉県 布達集 二	第19巻 埼玉県 布達集 三	第20巻 埼玉県 布達集 四	第22巻 小室家文書 一	第22巻 小室家文書 一	100%	◇第22巻の円滑な刊行を目標としました。 ◆計画的に編集・校正作業を進めることにより、埼玉県史料叢書第22巻「小室家文書一」を予定どおり刊行することができました。	○第22巻「小室家文書一」を2月に刊行・配布しました。 ○第21巻以降の刊行計画に基づき、31年度以降刊行予定の第21巻「戦後報道写真」及び「小室家文書」続巻の調査・編集作業を進めました。	○第21巻の円滑な刊行を目標とします。 ○第23巻以降の刊行計画に基づき、第23巻「小室家文書二」を編集・刊行するとともに、令和2年度以降刊行予定巻の編集を進めます。
2 県史編さん資料(写真資料等)の公開(予定)点数(整理済点数)(累積数で表示)	18,479	21,507	24,170	—	—	—	◇大規模改修工事の影響で公開のための整理は休止せざるを得ず目標値を設定できませんが、再開後の保存利用等を見据えた配架及び整理を行い、31年度の再開に備えます。 ◆再搬入にあたっては、保存や出納の効率性に配慮し、保存場所を選定のうえ配架を行った。	○31年度の再開に備え、大規模改修工事のため外部保管庫等に預託した県史編さん資料を事故なく再搬入し、整理・点検のうえ再配架を完了させました。	○県史編さん資料の公開に向け、整理作業を再開します。

評価項目6 収蔵資料の保存 県民共有の財産である古文書・行政文書などの資料を後世に伝えていくため、良好な状態で保存し、収蔵資料の劣化を防止します。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	◇目標値の設定理由 ◆達成状況分析	30年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	27年度	28年度	29年度	30年度					
1 古文書：修復(枚)	116	114	(34)	—	(98)	—	◇大規模改修工事の影響で、前年度と同様、修復枚数の測定項目に対しては目標の数値設定を行えませんが、限られた回数でも継続してまいります。 ◇彩の国ビジュアルプラザとの連携による報道写真のデジタル画像の公開は、大規模改修工事中においても計画的に実施できることから、例年並みの目標値としています。	○前年度に引き続き、修復活動は県立常盤高等学校の余裕教室を活用して実施しました。 ○大規模改修工事の影響で活動が大きく制約されることからボランティアの新規募集は行いませんでした。	○新たに専門家に依頼するなどして、技術の維持向上のための研修等を実施し、修復技術の維持向上に努めます。 ○彩の国ビジュアルプラザとの連携による報道写真のデジタル画像の公開にも引き続き取り組みます。
2 古文書：報道写真デジタル化(点)	796 (累計)	826 (累計)	856 (累計)	886	916	103.4%	◆古文書の修復については、限られた回数でしたが、ボランティアの努力により、前年度実績値を上回る枚数の修復を行うことができました。 ◆彩の国ビジュアルプラザとの連携による報道写真のデジタル画像の公開を計画的に実施し、目標値に達しました。		
3 行政文書：重要文化財指定文書の複製化(冊)(コマ)	151 (71,202 コマ)	127 (53,958 コマ)	(10) (4,190コ マ)	—	(11) (3,814コマ)	—	◇複製化の対象となる簿冊の状態によって数値が変動するため、目標値の設定は行いません。 ◆30年度に予定していた11冊の文書の修復と複製化は計画のとおり実施できました。	○マイクロフィルム撮影に耐えうる範囲での軽微な修理対象となる重要文化財指定文書を選定した上で、文化財修復実績が豊富な専門業者のもとで修復・撮影を行って複製化を進め、効率的に保存と利用の調整を図りました。	○修理対象とする文書を精査し、専門業者による修復・撮影を行って複製化を進め、より効率的に保存と利用の調整を図りました。

評価項目7 文書館の普及、連携、協力活動 行政文書・古文書・地図等の収蔵資料を活用した講座・講習会及び子ども体験事業を通じて、県民の学習意欲と理解を深め、文書館の利用を促します。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	◇目標値の設定理由 ◆達成状況分析	30年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	27年度	28年度	29年度	30年度					
1 講座、普及事業	回数	32	32	31	27	32	118.5%	<p>◇学校連携事業や子供事業は、30年度も大規模改修工事のため館内で開催ができないため、開催回数・参加人数とも目標値を下げざるを得ません。しかしながら、他機関と連携したり、外部からの依頼にも可能な限り応じたりしながら、積極的にアウトリーチに努めます。</p> <p>◇大規模改修工事のため館内施設が使用できませんでしたが、講座や各種事業は、他機関と連携して開催することで、できる限りサービス水準を維持しました。</p> <p>○学校連携事業については、外部会場での教員研修等の実施のほか、出前授業にも積極的に取り組みました。</p> <p>○子供事業では、体験教室の種類を前年度より3種類増やし、教材にも細川紙を取り入れ、より多様な体験教室を展開しました。</p> <p>○古文書補修のボランティア活動も、前年度に引き続き、県立常盤高等学校の余裕教室を活用しながら実施しました。</p> <p>○8月の子供体験教室(巻物・和本づくり)において、県立常盤高等学校の学生ボランティアを募集し、県立学校との連携を積極的に図りました。事前講習会を開催し、教室当日は、高校生ボランティアが中心となって子供たちの活動をサポートしました。</p>	<p>○リニューアルオープンに伴い講座・普及事業の会場は文書館となりますが、一部の講座はアウトリーチで実施します。また、大規模改修による施設の改善により、各講座等の募集人数も増やします。</p> <p>○引き続き学校と連携を図り、ボランティア活動の継続に努めます。</p>
	人数	1,293	1,310	1,117	1,425	1,562	109.6%		
2 学校との連携事業	回数	44	75	19	40	15	37.5%		
	人数	1,219	1,545	900	1,000	914	91.4%		
3 ボランティア活動古文書補修	回数	40	40	29	25	36	144.0%	<p>◆講座、普及事業についてはアウトリーチ形式で実施した結果、目標値を超える実績が得られました。</p> <p>◆学校との連携事業は、職場体験学習の受入等が大規模改修工事の影響でできなくなったことにより実施回数が大きく減少しましたが、出前事業を積極的に実施したことで、参加人数については目標の9割を達成できました。</p> <p>◆古文書補修のボランティア活動は、前年度に引き続き県立常盤高等学校の余裕教室を活用して実施しましたが、当初目標を上回る活動回数が確保できました。</p> <p>◆子供事業のボランティア活動は、大規模改修工事に伴い子供事業の開催場所を常盤高等学校としたことから、同校生徒の協力が得られ、参加人数が予定を大幅に上回りました。</p>	<p>○学校連携事業については、外部会場での教員研修等の実施のほか、出前授業にも積極的に取り組みました。</p> <p>○子供事業では、体験教室の種類を前年度より3種類増やし、教材にも細川紙を取り入れ、より多様な体験教室を展開しました。</p> <p>○古文書補修のボランティア活動も、前年度に引き続き、県立常盤高等学校の余裕教室を活用しながら実施しました。</p> <p>○8月の子供体験教室(巻物・和本づくり)において、県立常盤高等学校の学生ボランティアを募集し、県立学校との連携を積極的に図りました。事前講習会を開催し、教室当日は、高校生ボランティアが中心となって子供たちの活動をサポートしました。</p>
	延人数	331	297	212	200	217	108.5%		
4 ボランティア活動子供事業	回数	12	13	10	10	9	90.0%		
	延人数	105	35	24	35	70	200.0%		

評価項目8 展示 収蔵資料を利用・活用してもらう導入部分として常設展示、コーナー展示をそれぞれ開催します。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	◇目標値の設定理由 ◆達成状況分析	30年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	27年度	28年度	29年度	30年度					
年間観覧者数(人)	10,283	7,216	—	—	—	—	<p>◇歴史と民俗の博物館での展示となり、独自の観覧者数計測が不可能なため、目標値の設定は行いません。</p> <p>◆参考値になりますが、当館による展示期間中の歴史と民俗の博物館展示観覧者数は39,751人にのぼり、当館の普及広報としての役割を果たすことができました。</p>	<p>○大規模改修工事のため文書館の施設が利用できないことから、歴史と民俗の博物館と共催で文書館所蔵資料を中心とした企画展と5回の「埼玉の人物」展示を開催しました。また、会場での展示解説や展示テーマに関連した講座も実施しました。</p> <p>○県庁渡り廊下やおけがわマインを会場に、「明治150年」にちなんだパネル展を開催しました。</p>	<p>○開館50周年&リニューアル記念企画展を年4回開催し、収蔵資料を様々な切り口から紹介します。</p>